

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第47週 (11月20～26日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	195	12923
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢	1	38
腸管出血性大腸菌感染症	60	3566
腸チフス		35
パラチフス		8
[4類]		
E型肝炎	7	485
A型肝炎		50
エキノкокクス症		13
エムボックス ¹⁾	1	217
オウム病		8
回帰熱		21
コクシジオイデス症	1	4
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群	1	131
チクングニア熱		7
つつが虫病	40	248
デング熱	4	156
日本紅斑熱	2	495
日本脳炎		6
ブルセラ症		2
マラリア	3	32
ライム病		29
レジオネラ症	41	2074
レプトスピラ症		48
[5類]		
アメーバ赤痢	2	434
ウイルス性肝炎 ²⁾	5	219
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	35	1890
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	2	53
急性脳炎 ⁵⁾	11	543
クリプトスポリジウム症		11
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	145
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	15	784
後天性免疫不全症候群	7	843
ジアルジア症	1	36
侵襲性インフルエンザ菌感染症	8	493
侵襲性髄膜炎菌感染症		16
侵襲性肺炎球菌感染症	37	1636
水痘(入院例に限る)	6	342
梅毒	139	13490
播種性クリプトкокクス症	1	153
破傷風		99
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		110
百日咳	9	893
風しん		11
麻疹		25
薬剤耐性アシネトバクター感染症		13

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	139914	28.30
新型コロナウイルス感染症	11499	2.33
RSウイルス感染症	176	0.06
咽頭結膜熱	11139	3.54
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12146	3.86
感染性胃腸炎	13781	4.38
水痘	363	0.12
手足口病	1924	0.61
伝染性紅斑	45	0.01
突発性発しん	631	0.20
ヘルパンギーナ	276	0.09
流行性耳下腺炎	71	0.02
急性出血性結膜炎	11	0.02
流行性角結膜炎	658	0.95
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	6	0.01
無菌性髄膜炎	13	0.03
マイコプラズマ肺炎	35	0.07
インフルエンザ(入院患者)	934	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	938	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	北海道、長野、佐賀
新型コロナウイルス感染症	▲	北海道、長野、山梨
RSウイルス感染症	▼	島根、北海道、山形
咽頭結膜熱	▲	北海道、福岡、福井
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、宮崎、千葉
感染性胃腸炎	➡	大分、熊本、福岡
手足口病	▼	福井、宮崎、新潟、鹿児島
伝染性紅斑	▲	千葉、宮崎、山形、群馬
ヘルパンギーナ	▼	熊本、香川、鹿児島
流行性耳下腺炎	▼	岩手、富山
マイコプラズマ肺炎	▲	福井、岩手、青森、佐賀

◆エムボックス(サル痘)：コンゴ民主共和国

1月1日～11月12日に、コンゴの26州中22州156の保健区域で、581例の死亡(致死率：4.6%)を含む、合計1万2569例のエムボックス疑い症例が報告された。疑い症例のうち、1106例がリアルタイムポリメラーゼ連鎖反応(RT-PCR)で検査され、714例がMPXV陽性となった(陽性率65%)。